

友人のこと

総務局人事部労務課 平成13年入庁

上野 龍一

な刺激を与えてくれます。まだ入庁から半年しかたないのに、同期の友人達の仕事に臨む姿勢は、もうそれぞれに少しずつ違ってきています。それを自分と比較してみると、とても勉強になります。それぞれの仕事を積極的に改善しようとする友人を見ると、自分も頑張らねばという気持ちになります。

さらに、様々な部署の友人達の仕事の話を聞くことによつて、「ああ、横浜市役所はそんな仕事もしていたのか。」という知識も得る事ができます。

入庁前の職場訪問や、4月の新人研修で私がよく言われた事は、「住民の立場から市政全体を見渡す視点を持つ」という事でした。それは本当に必要な事だと思えます。友人達から得られた知識は、そうした視点に立ったものとは言えないかも知れませんが、それに「住民の視点から見た時にどうか。」というフィルターを一つかけて見てみれば、持たんとする視点に少しでも近づく事ができるのではないのでしょうか。少なくとも、役所の側の見方だけに終始する事への反省は持つことがで

同期の友人達は、私にとって大切な存在です。社会に飛び出したばかりの私にとって、慣れない事務の仕事や、職場という環境そのものにとまどう事も多いわけですが、そんな時、気楽に話ができる友人達の存在はとてもありがたいです。

昼休みや、仕事が終わってから皆で集まってする食事はとても楽しいものです。仕事で少し行き詰まった時、彼らと過ごす時間は、とても良いリフレッシュタイムになります。

友人達の存在は、さらに色々

きるような気がします。この事に気をつければ、友人達から得られる市政に関する知識は、とても重要なものであると思えます。情報を交換し合い、互いに切磋琢磨していくよう努めていきたいと思えます。目指すべき目標は、住民の視点に立った時に、最高の評価を頂ける行政サービスの実現です。この目標に向かつて、友人達と頑張っていけたら幸いです。

そして、そのためにも、まず自分が友人達に何かを与えられる存在であるように、今できることから、こつこつと努力を積み重ねていきたいと思えます。

あとがき

新しいミレニアムの幕開け、それはY2K問題で始まりました。皆さんの中にも、正月返上で職場にいた方もいらしたことでしょう。運良く(?) 私は、2000年の正月を家族と迎えることができましたが、この年初めてエアコンや車のエンジンをかけるとき、多少緊張したことを覚えています。幸いにも多くの方々の努力のおかげで、大きな事故も起こらず、新年を迎えることができました。

ある新聞ではじめて「IT革命」という言葉が登場したのが、この年の1月だそうです。「革命」というからには数百年に一度の大変革であり、平成12年度の経済白書では、ITを「過去の蒸気機関、電力、自動車などに匹敵する大きな技術革新の波」と表現しています。

そして21世紀。ITが今後、私たちの仕事や生活をどのように変えていくか、まったく予想できません。IT基本戦略によると「インターネットを中心とするITの進歩は、人々、人と組織、人と社会との関係を一変させる。」と書かれています。

「200X年12月〇日、登庁後 自席のパソコンのスイッチを入

れる。着席後、着信メールに目を通し、返事を出す。3件の電子決裁を済ませ、午後の電子会議に使う資料を総合行政ネットワーク(LGWAN)を利用し作成をする。さて、電子会議も無事終わり、家に帰ろう。今日は寒いから帰ったらすぐ風呂に入りたい。駅に着いたら携帯で指示しておこう。PDAの普及であらゆる家電や住宅設備がデジタル化されネットワークに結合されている。食事も終わりネットワークショッピングをしていたらほしいものがあつた。e・コマースのおかげで家にいながら買い物ができ、しかも支払いも電子マネーでできるからとても便利だ。」という時代が、もう目の前にきているのかもしれない。(森)

「調査季報」は職員が自由に見解を発表し討論する行政研究誌です。「自主研究レポート」への投稿をお待ちしています。

応募される方は、事前に研究の概要をA4紙3枚以内にとめて企画局政策部調査課までお送りください。

FAX 663・4613
お問い合わせは、
電話 671・2029

●第144号(二〇〇〇年十二月)

特集・成熟する横浜の郊外

- 1 「郊外」というライフスタイルとまちづくり
—— 三浦展
- ① 郊外型ライフスタイルの形成と展望
—— 小池信子
- ② 郊外住宅地開発の変遷と展望
—— 編集部
- 2 横浜における郊外の成長と成熟
—— 編集部
- 3 横浜の郊外市街地形成と交通
—— 古木淳・田原秀樹
- ① 鉄道整備と郊外部の街づくり
—— 古木淳・田原秀樹
- ② 東急多摩田園都市における郊外再構築進化論
—— 島津良樹・田苗創基
- コラム・横浜郊外文化とトリエンナーレ
—— 高安宏昌
- 4 横浜の「郊外」は今——フィールドからの提言レポート
—— 寺岡充・宮坂彰志・卯都木隆幸・小田成一郎・階堂智子
- ② 都筑区——港北ニュータウンを中心として
—— 松岡文和・米満東一郎・續橋宏昭
- ③ 港南区
—— 城内孝元
- ④ 栄区
—— 山口彰夫・三枝木伸・田村慶子・橋本健
- 5 郊外の都市づくりのこれからを考える
—— 谷口和豊・杉野展子
- ① 成熟化する郊外の都市づくりを考えるための見取り図
—— 加川浩・柿崎祐
- ② これからの郊外の交通を考える
—— 菅孝能・新明健・見学洋介・新江英雄・大場重雄
- ④ 「農」や「緑」と共生するまちづくり
—— 江成卓史・内海宏
- ⑤ 成熟した郊外を支えるコミュニティビジネス
—— 吉田洋子・古居みつ子
- 調査&政策研究/ヨコハマをお貸しいたします——横浜フィルムコミッション事業
—— 増田文彦
- 新鮮力/新・地球世紀へのキーワード「共に生きる」
—— 角田定孝

●第145号(二〇〇一年三月)

特集・都市生活と動物

- 1 人と動物の関係を考える
—— 林 良博
- 2 肉食文化と生命尊重——日本における肉食の歴史と人権の視点から
—— 吉田拓郎
- 3 横浜の動物園
—— 堀 浩
- ① ムラシアの役割・活動
—— 紺野康文・河合正嗣・大坂 豊・市川典良
- ② ムラシアの役割・活動
—— 吉田哲夫・松寄尚紀
- ③ 横浜動物の森公園よこはま動物園の建設事業について
—— 石原敏明
- ④ これからの動物園を思う
—— 渡辺洋一
- 4 都市生活とペット
—— 小柳充子
- ① 横浜市の動物関係行政
—— 阿部富美子・荒牧健夫・加藤一則
- ② 地域猫の誕生——磯子区猫の飼育ガイドライン推進協議会の活動
—— 太田成江
- ③ 西区の動物介在活動支援事業
—— 井本史夫
- ④ 白朋苑の動物介在活動(ワンワンクラブ)
—— 鳥居正夫
- ⑤ 「あなた」と「猫」と「世の中」と
—— 小野香織
- ⑥ 集合住宅とペット飼育
—— 小野香織
- ⑦ 学校飼育動物
—— 小野香織

新鮮力/動物園に来て、感じてほしいこと

—— 小野香織

●第146号(二〇〇一年六月)

特集・循環型社会システムの構築に向けて

- 1 循環型社会へのパラダイムシフト
—— 植田和弘ハインタビュー
- 2 大量廃棄社会の限界と循環型社会への展望
—— 細田衛士ハインタビュー
- 3 横浜市の廃棄物処理の現状と循環型社会の形成
—— 青木恵子・永木宏一郎
- ① 一般廃棄物をめぐる現状と横浜市の処理計画
- ② 横浜市ごみ減量化アクションプログラムの策定
—— 石川美枝子
- ③ 循環型社会システムを考える——ペットボトルのリサイクルから
—— 下田康晴
- ④ 産業廃棄物を巡る課題と動向——横浜市における産業廃棄物行政
—— 加藤郁二・関川朋樹
- 4 市民のライフスタイルとリサイクル活動
—— 松本安生
- 5 事業所のごみ減量化・資源化への取り組み
—— 一見良之・岩本健二
- ① 事業所ごみの現状と課題
- ② キリンビール横浜工場のゼロエミッションの取り組み
—— 松沢幸一
- ③ 松下通信の資源化・減量化の取り組み
—— 佐野正之
- ④ 商業のごみ減量化・資源化への取り組み
—— 樋口泰雄
- 6 リサイクル産業の動向
—— 中野聰恭
- ① 循環型社会システムへ向けて第三のECCO提案
—— 小塚敏文
- ② 古紙のリサイクル——現状と課題
- 7 市の事業と循環型システム
—— 重田 薫
- ① 二十一世紀の資源循環型ごみ処理施設——金沢工場の焼却灰溶融設備とごみ発電について
—— 藤村英樹
- ② 循環型社会への取り組みと下水道
—— 松本恵里子
- 自主研究レポート/公会計における企業会計的手法の検討
—— 藤村英樹
- 新鮮力/人のために働く
—— 松本恵里子

調査季報

147

2001年9月

●

編集・発行

横浜市企画局政策部調査課

〒231-0017横浜市中区港町1-1

TEL.045-671-2029

2001年9月30日発行

横浜市広報印刷物登録
第1301285号

類別・分類A-BA011

デザイン サウスピア

印刷 株式会社ガリバー

ISSN0387-8899

この印刷物は再生紙（古紙混入率70%）を使用しています